（日刊）

京城新報

●新聞料 ▲一部二錢 ▲一ヶ月前金……
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢……
●休刊 十月十四日
發行兼編輯人　印刷人 山下英
京城西署四小門通
發行所 京城新報社 電話一六三

一年雜記

韓南と韓北（上）　對星樓山人

韓北より歸來、幾ばくもなく韓南の各驛を觀るべく出發した、筆を載せて幾度か韓南を往來し或時は安養村の栗樹を歌ひ、或時は天安の古城に上り、或時は梅村の停車場より歩して八達山下の盛都城に徘徊したが、今は然らずして我民族の發展狀態に就て多少の研究を試みるため、第一日太田驛に滯ることゝした。

太田驛は韓南線に於ける第一流の市場である錦江右岸の農産地を控へ、遙かに全羅と交通の機脈に當り、若しも半島の歴史より政治より公州城を埋沒して太田に忠南の主府を移すことゝしたなれば、太田の發展は將來我民族の南下し半島に於て南下の關門となるべき豫想を起した、秋漸く傾き、市場に上れる農の收穫展覽は頗る活潑であつた。

太田驛より幾里にして長白山脈の山地に入る、永同、沃州、人は郊野にあり、小兒は熟柿を拾ひ、鷄鳴近く山村より起り、沿路の擧花、亂山の紅葉、眞に一幅畫中に安座せるの感に堪へない、況んや秋風嶺に到れば、山勢雄大なる山勢四圍より壓し來り、恰かも我函根の觀がある、我儕は此地を過ぐ毎に無量の感慨を禁じ得ない、金泉に下車して洛東江上流地域に於ける貿易の隆盛なるに驚き、餘り世に著名ならざる小市より一年五百萬圓の貨物が集散されつゝあるを見て鐵道布設より及ぼしたる市場の變化を著しく實見し得た、三百餘の我殖民地の店前に於ては穀物、石油、砂糖、雜貨、藥品、牛皮、木綿、累々として沽客と混展してゐる、之を韓地に於ける青樓紅燈の殖民地に比して、其健全なる發展狀態を見て欣然たらざるを得なかつた。

大邱は言論の殖民地である、政治的殖民部落である、我儕の朋友は皆な大邱市政に就て熱火的討論會を開催しつゝあつた、若しも之を統合して慶北の大都會を發達せしむるの經濟家あつたなれば、彼等は達城の城壁を破壞したる勇斷を善導したであろふ、是より秀麗なる馬山、及び釜山の間を往返し、新義州に通ずる世界的關門たる釜山に就て大氣焰を吐いたが、釜山の市民自らは未だ世界的關門たることに就ては除り新しき材料と計畫を有して居らぬ、彼等は長崎より、より穩氣なる、より安樂なる商港として甘んじて居る。

之を韓北に比すれば韓南に於ては、我殖民部落は永住的である、韓人と市場を共有し交通を共に利用し、經濟的連鎖は漸く堅となりつゝある、彼等は孤立的に戰火の光輝を望んで移殖したるものでなく、各自の勇氣と能力とを以て開拓したものである、韓北の殖民狀態は政治的である韓南は經濟關係である。

仁川本年の貿易（續）

▲五月　五月は米穀類は目先の好人氣を氣構へて農家は放賣多く地方より出廻は稍や緊く前月より引續き相應の輸出ありて相場稍ゝ强氣を呈し大連への輸出も依然維持せられ其額參萬以上に上れり大小豆及牛皮等も多少の出廻はりありたれども相場は産地高舍の爲め輸出捗々しからずして本月中の輸出總高は廿三萬餘圓に降り前月に比し約五萬を減じたり夏季商品並に建築材料輸入は著しく增進するに至りしと雖とも輸入品中紡績糸洋金巾和木綿砂糖及麥紛其他雜貨類は農繁季に入り例年の通り一般商況の沈靜に伴へ自然現象とて前月よりは稍不振に陷り就中木綿及金巾は別して不況を見たり輸入總高は百九十八萬八千餘圓に達し前月に比して四十一萬五千余圓を增加したりと雖も建築材料の外は概ね在荷の停滯を來たし一般の商勢は緩漫を以て經過したり

▲六月　六月は精白米の大連輸出活氣を呈し昨年以來の好況は頗はして其額五萬餘圓に達し相場も前月に比し稍高値を告げたり玄米は日本相場の好況に連れ幾分騰貴を示し輸出も亦大に振へり大豆以外雜穀類は出廻り僅少にして取引薄く牛皮は阪地荷嵩のため安保ち合にて取引なかりしも輸出總高は三十六萬七千餘圓に上り前月に比し約十萬圓を增加せり輸入は季節柄夏季衣料として清國及日本より麻苧類の輸入夥しく其額三十三萬圓に上り板材木類の輸入も亦夥しく其額十七圓に達したりと雖も一時荷閊を緩するに至れり輸入雜貨類は農繁季に際し地方より人出少なく取引不活潑にして賣行捗々しからず綿糸の如きも稍荷閊への狀態なりき麥粉は内地高値を告げたるが爲め少しく騰貴季節柄取引薄く砂糖も麥粉と同しく季節を過ぎ取引捗々しからず相場は何れも安保ち合を告げたり以上の狀況にして麻苧及板材木の輸入を除き自餘の雜貨類は輸入を減少し本月中の輸入總高は百五十一萬三千餘圓に上り前月に比して四十七萬餘圓を減少せり

十月中 京城の物價

商業會議所調査

品名		單位	十月	九月
白米	上	石	一七、三〇〇	一七、五〇〇
同	中	同	一六、八〇〇	一七、〇〇〇
同	下	同	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇
玄米	上	同	一二、五〇〇	一三、〇〇〇
同	中	同	一二、三〇〇	一二、八〇〇
同	下	同	一一、一〇〇	一一、〇〇〇
小豆	上	同	九、一〇〇	一〇、〇〇〇
同	並	同	八、九〇〇	九、〇〇〇
大豆	（上）	同	八、二〇〇	八、二〇〇
同	（並）	同	七、九〇〇	七、九〇〇
小麥	上	同	六、六〇〇	六、五〇〇
同	並	同	五、九〇〇	五、九〇〇
大麥	上	同	四、二〇〇	四、三〇〇
同	並	同	三、八〇〇	三、九〇〇
洋金巾	泰和軍人	反	七、三〇〇	七、三〇〇
同	同和軍人	同	六、三〇〇	六、三〇〇
同	同銅壽印	同	六、三五〇	六、三五〇
和金巾	三印	同	一三三、二〇〇	一三三、二〇〇
同	三エー印	同	一三九、〇〇〇	一三九、〇〇〇
麻布	越中産上	匹	三、二八〇	三、二八〇
同	同 下	同	二、五五〇	二、五五〇
紡績糸	△七一六手	梱	六六、〇八〇	六六、〇八〇
同	△ビ一六手	同	六四、八五〇	六四、八五〇
生木棉		匹	五八〇	五八〇
三月金巾		梱	一三八、〇〇〇	一三八、〇〇〇
△食料品				
日本酒	菊正宗 三、九入	樽	一九、五〇〇	一九、〇〇〇
同	櫻正宗 三、九入	同	一九、五〇〇	一九、〇〇〇
同	澤鶴 四、五入	同	一八、〇〇〇	一七、〇〇〇
同	白鶴 四、五入	同	一九、〇〇〇	一八、〇〇〇
同	櫻魂 四、五入	同	一八、五〇〇	一七、〇〇〇
同	東洋一 四、五入	同	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇
同	金平 四、五入	同	一七、五〇〇	一七、〇〇〇
醤油	龍印太樽 三、五入一等	同	八、八〇〇	
同	二等	同	七、六〇〇	
同	三等	同	六、六〇〇	
同	小樽 特等	同	三、三五〇	
同	一等	同	二、五〇〇	
同	二等	同	二、二〇〇	
同	三等	同	一、九〇〇	
同	龜甲萬印 同	同	四、二〇〇	四、二〇〇
白味噌	正味廿目入	同	七、〇〇〇	七、〇〇〇
赤味噌	同 八目入	同	六、三〇〇	六、三〇〇
砂糖	イスビイ	壜	九、二〇〇	九、二〇〇
同	四温 イスアル	同	八、九〇〇	八、九〇〇
同	スイスエキ	同	八、四〇〇	八、四〇〇
麥粉	旗印	袋	二、四五〇	二、四九〇
同	大日本	同	二、四〇〇	二、四〇〇
牛肉	（四打入）	箱	九、〇〇〇	九、〇〇〇
福神漬	同（三斤半入）	同	七、二〇〇	七、二〇〇
パイナップ	（四打入）	同	六、二〇〇	六、二〇〇
鮭		同	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
筍		同	五、五〇〇	五、五〇〇
鶴		同	二、〇〇〇	一四、〇〇〇
松茸		同	九、五〇〇	九、五〇〇
鰹		同	八、九〇〇	八、九〇〇
鰯		同	八、九〇〇	八、九〇〇
麥酒	札幌 四打入	箱	九、六五〇	九、六五〇
同	旭 同	同	九、六五〇	九、六五〇
同	ビース 四打入	同	一〇、八〇〇	一〇、八〇〇
平の水		同	四〇、三〇〇	一〇、八〇〇
洋酒	十年ウイスキー	打	二四、五〇〇	二四、五〇〇
同	七年同	同	一七、六〇〇	一七、六〇〇
同	ブドヲ酒 セントミロン	同	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
コンデンスミルク		箱	一三、五〇〇	一三、五〇〇

牛庵雜記（二）

黑法師

我皇太子殿下の御來韓は有史以來の盛儀ぞかや。而して恩典の洽き予か如き微賤の臣までも恩澤に漏れすして御下賜金を拜授するに至る之を以て何をか紀念品を得ばやと思量するも卓絶の考案無し、遂に一書を購求して日夕の誦讀に供し以て其榮光に浴せんと決し翌日郵便爲替となして送付せんものと、件の金を取り出せば銀光燦として掌上にあり、之を郵便局員に交付せんとするの刹那、何となく名殘の惜まるゝ心地して綴ます、則ち他の阿堵子を以て之に充て稍自らを慰藉するを得たり

史を讀んで愛す幾の黃菊哉
君がよや木綿蒲團もあたゝかに

文苑

黃菊白菊（上）

金子雨翠

菊の戶や天長節の朝日影
水澄みて白菊うつる野川かな
霧吹いて夜をかざるや市の菊
風なきに散る松の葉や菊の上
月白く菊に更け行く謠かな
癈苑や白菊ありて暮のこる
菊活けてはたく歌集のほこり哉
葉は枯れ／＼唯白菊の白き哉
白菊や宮相撲ある庭の隅
菊の酒三杯にしてわれ醉ひぬ

佳羅舟之殘

玉井南軒

鳥戀
もゝ鳥のなきの涙の我文の
鸚鵡返しとなるぞくやしき

寄草木戀
古里の人の心も草も木も
秋となりては色のうつらふ

寄車戀
二人して挽きつひかれつ小車の
めぐる戀路の果もなきか南

鵜船
鳥羽玉の闇に鵜舟の影消ゑて
篝火ばかり燃ゑにもゆらん

命
果敢なさは葉末の露のそれよりも
人の命の見ゑぬなりけり

思意中人
結ばれし胸の糸柳君ならで
吹きとくべくもあらぬ我戀

文を遣りて返り言なき時
葛の葉のうら吹きかへす風だにも
なくて淋しき野の景色可奈

對月三省
わきりにをさやけき月にはぢらひて
ふりかへり見る已が影か茂

心は一なり
人皆のこゝろの色は賤しきも
貴きもなどてかはるべきやは

たへがたきをしのぶ戀
陸奧の宮城の路は遠くとも
しのべば忍ぶ途はありけり

小説　紋のみだれ（七）

永井櫻圃

清花が妹脊を語り了つた時は、滿場立錐の餘地と云ふが、實際錐所では無い針も立てられぬほどの大入で、身動もならない苦しを堪ねねばならぬのであつた。無論木戸は締切つてある。番組に記して顏觸は順次語り了つて、此次が初お目見に滿都の人氣を博した清之助の番である。聽客は響動き渡つて、書生連は居坐を正すもあれば、襟袴を卷替へるもあり、襟を掻合すもあつて、虛心平氣に眺めて居ると、宛然一幅の滑稽畵を活演して居るのである。かゝる響動の中を破つて

「東西、東西」引

と、まづ鳴を鎭めて

「此許れ聞に達しまする淨瑠璃藝題、艶容女舞衣、語りまする太夫は竹本清之助、三味線竹本清菊、いよいよ三勝半七酒屋の段始り、東西、東西。」



と、披露の口上が濟めば、滿場の拍手は家をも覆さんばかりである。と同時に簾を捲き上れば、清之助は島田髷美しく結ひて五彩の總の花簪を挿し、黑紋附に紫斗目の上下を着け、艶容正しく見臺に向つて、頭を垂れて居る。後轟は誰が贈つたのか、艶姿花と競ひ、妙音天樂と爭ふと、筆蹟美事に書いて、贔負より竹本清之助丈へと記してある。聽客は清之助の姿を見るや又も歎んで拍手に迎へた。中には消魂ましく口笛を鳴らすものもあつた。拍手や口笛が場の四周へ消ゑて行くと、靜に頭を上げて場內をグルリと見廻した後、衣紋を繕ひ姿勢を正して、やゝ反身になつた。聽客の視線は渠が一身に集注して、一顰一笑一擧手一投足だも、逃すまじと注意するので、此の瞬間は恰も水を打つたやうに、靜り返つた。清菊が三味線の調子を合せ了ると、

やがて清之助の紅唇が徐に開き初めたと思ふと、渠が天來の妙音は忽にして綿々と響き渡つた、先づ冒頭の（こそは入相の鐘に散り行く花よりも、あたら盛を棄てゝ親が）と語り出した。何方ともなく、

「旨い、旨いもんだ。」

と云ふ聲が聞ねた。すると傍から、

「シイー。」

と、それを制する叱聲が湧た。それが餘に嚴肅であつたので、思はずクス／＼と笑ふものもあつた。清之助はどうにかして初見參にウンと人氣が取りたいものと、義太夫あるを知つて客あるを知らざる如く、丁度禪僧が無念無想の禪境に入つた時のやう、一心不亂に語り續けて、俗にサハリと唱へる名文句に至るや、場內殆んど一樣に、

「待つてました。」

と、叫んだ。清之助は此所ぞと云ねばかり

「今頃は半七さん。どこに何うしてござらうぞ。今更返らぬ事ながら、私と云ふもの無いならば。」

と、持つて生れた美音を發して、抑揚頓挫自由自在に喉を轉ばし、語り進むで、

「思へば、思へばこの園が、去年の秋の病に事を死んで了ふたら、斯うした難義はあるまいもの、お氣に入らぬと知りながら未練な私が輪廻ゆゑ。」

と、語り進むだ時は、滿場の聽客は知らず知らず琴線を敲れて醉へるが如き在樣であつた。やがて

「今の思ひに比れば、一年前にこの園が、死る心が附なんだ、こらへてたべ半七さん、私やこのやうに思ふて居ると、恨みつらみは露ほども、夫を思ふ眞實心猶彌增る愛き思ひ。」

と、語り了つた時は、拍手の音百雷の轟く如く、暫時は鳴りも止まなかつた。

自衛團に就て

京城新報

暴民の勢未だ克く鎭滅せざるを見るや、風說の如く自衛團法なるもの内部大臣の命令によりて發布せられたり、蓋し當局者は以て此良法によりて良民保護の計を得たりと爲すものゝ如し。

曾て七年前漢城城内に於て獨立協會と褓負商の爭鬪激甚となるや、城民互に約して五統一作の自衛法を設けたりき、自衛團にして果して五統一作の如くんば誠に暴民に對して好大の防衛たるべきを疑はず。

然りと雖も今や韓國の治安を保持するの計は帝國保護の上に至大の關係ありて、現に帝國の軍隊は多大の勞苦を忍んで暴徒鎭滅に從事せり、只だ其れ暴徒の範圍次第に擴大となり、一定策戰の下に於て討伐し能はざる所以のもの蓋し暴徒の戰鬪力强大にあらずして漸次微弱の國民を擧げて暴民に群伍せんとするの事情存すればなり、故に苟くも能く其根本の政策に變改なくして徒らに自衛團法を以て防衛し得べきを豫期するが如きは大なる失敗たるを免れざるべし。

見るべし暴民中に於ては頑冥にして軍隊の解散を憤れるものもあり、一部政社の幸福を以て自己の敵と爲すものもあり、或は其首領及指揮者の政事的不平によりて煽動せられたるものもあり、或は純然たる財貨の掠奪を行ふために參加し、或は父兄を失ひ、家產を蕩盡して群伍するものもあり、斯くの如き政事的反抗の民を收むるに際しては一國の爲政者は深く其根源する所を察し、自ら其責を盡くすを以て第一義と爲さざるを得ず。

警察及軍隊は、其現實に向つて威力を用ゆるのみ、已に斯る理由によりて爆發せる暴徒に對して、鎭滅の責を警察及軍隊の威力にのみ歸すべからざるは明かなり、韓國は宜しく其元首及爲政者自ら治安の責を盡くすのみ、然らざれば韓國民は帝國の保護を受くるを喜ばず、之に反抗し、之を破壞せんとするものなれば、帝國は宜しく保護關係を變改して帝國自ら帝國の利益と信ずる行動を取ることこそ適切ならずや、今に至りて自衛團の如きは時機を得たるの計に非ず。

水道工事に付て

水道工事の完成を待つや恰かも大旱に雲霓を望むか如し近者着々として其の歩を進めつゝある之が工事の進捗は吾人をして大に意を强うせしむるに足る唯吾人の滑稽事に堪へざるは苟も二十萬の人口に供給する大規模の設備として其鐵管の細小にして恰かも針の穴にも比すべきものあることこ是れなり其事は之を措き若し一朝嚴寒の候に入らん乎忽ちにして氷結凍滯し何等の用をも辨せざるに到らんのみ思ふに斯くしてまでも外人の施設經營に俟たざるべからざる必要ありや否や

桑港電報

▲晩香坡事件談判

(十七日發)

晩香坡事件の損害賠償額に就き加奈太政府委員と我が森川領事との間に爭論起り同領事は其削額の言に反對し未だ之が落着を見ず尚右談判は追て「オッタワ」に移さるべし

▲密使の寢言採用

(十七日發東京經由)

韓國

桑港商業會議所は前韓皇の代表と稱する米人ハルバートなる者の言を容れ次期議會に現行米韓條約と韓國の宗主權との關係を當局者に質問せんとす其の要領は日本は日韓關稅同盟を結び米國輸入品に荷稅を課すべし故に韓國の自由貿易權を正確にすべしと云ふにあり

各地電報

▲巡査の行衛不明

昨夜七時半暴徒約五十名龍安分派所を襲ひ放火す石井巡査長行衛不明の由にて在全州の增田警視は直に巡査九巡檢二を率ひて出張せり(十七日龍安發)

▲巡査の戰死
十六日午前六時暴徒約二百名與陽分派所を襲ひ巡査(樣木)戰死したり(十七日大邱發)

▲郵便局員等の行衛不明
今日午前三時頃暴徒約百名牙山分派所を襲ひ郵便局員及び巡査の妻行衛不明トンボより憲兵隊應援のため出張したり(十六日…發)

▲虎列拉發生
(日致院驛發)
十六日來當地に於て日本人四名韓人六名虎列拉病患者發生し警察は嚴重に警戒せり(十六日平壤發)

▲郵便局員等無事
前電賊徒牙山襲來の際行衛不明なりし巡査の妻及郵便局員は何れも無事なる事明了せり(十七日鳥致院發)

雜報

皇帝の社稷參謁

皇帝には昨十八日午前十一時御出門西大門内の社稷に參拜し雲峴宮に成らせられ太皇帝及嚴妃に對顏せられたり

●太皇帝 前皇には今明日中に雲峴宮を訪問せらるゝ筈なりしも都合により時日を變更せられたりと云ふ

●韓皇太子隨員 不日本邦に留學せらるべき韓太子の隨員は李達鎔趙東潤嚴益柱の三氏に内定したりと云ふ

●答禮大使確定 本邦派遣答禮大使は完興君李載冕氏に確定したりと云ふ

●皇太子傅 李俊鎔氏は今回皇太子傅を命ぜられたり

十二師團參謀等の謁見

本日は昌德宮に於て伊藤統監を初め香港裁判所長ピゴット氏其他海陸軍人の拜謁ある由は既報の如くなるが尚十三師團參謀長渡邊小太郎氏外六名と歩兵第三十七聯隊付少佐松江豊壽歩兵第三聯隊附歩兵大尉内藤貞一憲兵小佐藥師川常義外一名をも謁見せらるゝ由

露國に去らんとす

探聞

韓國元陸軍步兵參領たりし金仁朱は故李容翊の幕下にして親露派の隊長として多少の勢力を有し排日運動に太に努め日露戰役中は日本軍の行動を露軍に密通し居りたるとの嫌疑あるものにて其後浦鹽斯德に逃走し所在不明なりしが本月上旬京城に歸來し露國領事館に潜伏し元同僚などを窃かに招集して何事をか密議する所ありしが彼れは不日露國莫斯加に往くべく吹聽し居れりと云ふ

韓内閣更迭説

伊藤統監には現内閣の威望を以てしては到底暴徒を鎭定するの難きを悟られ再び朴齊純を起して近々の中新内閣を組織せしむるならんとの風説目下韓人間に專らなり

●新官制發布 韓政府各部の新官制は本月二十五日頃發布せらるべしと云ふ

●本日の參與官會議 豫て韓國政府側より回送したる韓國の官制は本日の參與官會議に於て決定せらるゝ筈

●修理費不足 安洞別宮の修理は經費不足の爲十分の修理調はさるべしと云ふ

●前自强會員 今回新たに設立認可となりし大韓協會が前自强會員の入會を許さゞる如く傳ふる者あるも右は虛説なりと云ふ

暴徒牙山を襲ふ

去る十六日午前三時約一百の暴徒は牙山郵便取扱所及警務分遣所を襲撃せり而して同取扱所長横村武司氏は遞送人と共に現金帳簿を持出し附近に避難したるも分遣所員中補助員一名は無事なるも一名は重傷を負たり溫泉里憲兵分遣所は此急報に接し憲兵及巡査若干名を同地に急派したり

高陽の暴徒退散

無賴漢十一名を逮捕す

京城旭町二丁目高島周助雇人香川縣の志田久之助は日本人二名韓人四名と共に電信架設材料運搬の爲め高陽に出張中去る十四日の正午頃三十四五名の暴徒に出會し彼れが暴威を加ふるを以て極力これを防禦し同伴の高野榮吉高島佐吉の兩名は無慘の死を遂げ到底衆寡敵する能はさるを以て辛うして一方の血路を開き其の場を逃れ日中は岩石の間に穩れ居り夜に入りて汶山方面を經て歸來し其の旨を報告せしより本町警察署の佐々木警部は巡査十數名を率いて去る十五日午前十時に高陽郡神穴方面碧蹄に出張せり同地は戶數七十餘戶の小部落なれども郡衙あり郡主事李泰定はこれを聞くより村民を率ゐて歡迎し且つ語つていへるやう十四日午後二時數十人の暴徒來襲し民家の米味噌を奪ひ又郡衙に闖入して書類等を掠め去れりと同地には格別異狀なきを以て碧蹄より約十五丁の山間新穴白岩といへる小部落に到り搜索して高島佐吉の死體を發見せり此の死體は村民が鄭重に蓆を以て蔽ひ居りしがこれを檢するに數ヶ所の創傷ありて慘殺せられたるものなり村民の語る所によれば十四日午前十時頃百三十人ばかりの暴徒襲來して民家の米を强請しこれを炊きて午餐を喫し糸耳里に向へりと爰を去つて開城街道に出で高野榮吉の死體を發見せりこれまた數ヶ所の銃創刀創ありて見るに忍びざるの慘死を遂け居たり更らに糸耳里に進んで聞く所によれば十四日午後六時多數の暴徒襲來し糧食を徵發して夕餉を爲し居る所へ日本兵來り砲擊したるより暴徒は四散せりと斯くて諸所を搜索し十五日の午前六時に到り某地の山上松林の間に二名の怪しき者馳け去るを認めこれを射擊せしが距離遠隔なりしが爲めに彼れは運よく逃げ遁れたり越ゑて十七日坡州郡條里面举日川里に到りしに同日は市日にて村落より多數のヨボ群集し混雜を極め居りしが此の日無賴漢にして暴徒に加擔するの嫌疑ある京城獨立門剤順敬(二十七)開城テイウンケル郞在正(二十三)江原道金城邑州金大淵(二十七)慶道鴻門尹先心(二十四)全羅道朴龍根(二十二)忠清道羅順甫(四十)慶尙道大邱梁國源(二十七)京城西江朴四俊(二十三)慶尙道金回水(三十)高陽チックル黃致萬(二十五)を捕へ引致せんとする際飲食舖鶴致事方に於て黃海道レング房明國(二十五)といへる者斯く同類に逮捕せられしは汝が密告によるものなりとて舖主鶴致事を殺さんとせるを取り押へたり地民はこれを見て大に嬉んで曰く渠等は常に當地に來り無錢遊興を爲し又諸物品を强徵する無賴漢なれば直ちに刑殺し呉れよと犇き合ひしとぞ而して鶴致事は房明國の爲めに鼻を削られしが生命には別條なかるべく佐々木警部一行は昨日午後無事歸京せり

瑞興守備隊の通過

海州守備隊稻垣大尉の率ゐる三十餘名は一昨昨日(十六日)同地を引き揚げ海路仁川に來着し同港守備隊舍に一泊一昨日(十七日)午前八時十六分拱覗驛を發して任地瑞興に向ひたり

統監の學童招待

伊藤統監は既記の如く一昨日午前十一時より官邸に於て催されたり之れに列したるは京城小學校敎員生徒千二百餘名にて折詰の辨當を賜られたり統監には裏手の山上に於て思ひ〳〵に嬉戲する無邪氣なる學童等を見て微笑を洩しつゝ觀覽し居られたり此日は朝來北風吹き荒みしも何れも大喜びにて午後三時頃退邸したりと云ふ

京仁間の複線工事

京城仁川間に複線を設くべく昨日永登浦鐵道管理局出張所に於て之れが受負入札を行ひたり而して差當り仁川富平間の工事に着手するやに聞けり

●支金庫會計檢査 日本銀行檢査課員土居千代三、奥忠彦の兩氏は昨日仁川第一銀行取扱の支金庫帳簿の檢査をなし同日終了せり

●鐵道敷地賠償金 京仁鐵道用敷地賠償金は近日度支部より夫々拂渡さるべしと云ふ

●京城民會の決議

先日來京城居留民會に於て打議中なりし汚物掃除稅賦課徵收の件漢城病院機械購入請費は引續き委員會に於て協議中なりしが昨日の委員會にては略決定したる筈にて多分原案と差異なかるべしといふ

●仁川委員會 本日午後四時より仁川居留地に關する委員會を開く筈

●高年禮大尉より狀禮 襲きに仁川守備隊大隊副官たりし高年禮大尉より仁川民團に對し在職中の禮狀を寄せ來れり

●梅博士歡迎會 在京城法政大學校友諸氏は一昨夜日本人俱樂部に於て其師梅博士の爲めに盛なる歡迎會を開きたり

●軍醫來仁 宇品本部附三等軍醫神部季俊氏は今回運輸部仁川支部詰を命ぜられたり

病將卒の後送

京城衛戍病院入院患者の中古賀中佐以下八名の病兵及負傷兵は寒氣に向ふに連れ療養思はしからざれば宇品の本部に後送すべく昨日仁川港に着せしが本日同港出航の咸興丸にて宇品に向ふ筈

●松江少佐送別會 既報の如く昨日午前七時より富田、新原、足立、和田、野口、廣居、近藤、横山等の諸氏は朝岡樓に於て松江少佐の送別會を開催せり

滿洲の金利

(四十年度上半期に於ける)

▲銀行利子 金利の最も高きは安東縣にして平均日歩三錢七厘强、次は鐵嶺の日歩三錢なり、其他は大連に於ける二錢五六厘と大差なし、而して當座預金利子は安東縣牛莊等の日歩八厘を最高とし、大連其他の日歩五厘を最低とす。定期預金利子は牛莊の年六分五厘を最高とし、其他は年五分なり。則ち六月末の現況を見るに

	貸付	割引	當座	定期
大連	二、六〇〇	二、五〇〇	〇、五〇〇	年五分
營口	二、六〇〇	二、七五〇	〇、八〇〇	年五分
奉天	二、四五〇	二、四五〇	〇、六五〇	年六分
旅順	二、六五〇	二、六五〇	〇、五〇〇	年五分
遼陽	三、三〇〇	二、七〇〇	〇、八〇〇	年五分
鐵嶺	三、〇〇〇	三、〇〇〇	〇、八〇〇	年六分
安東縣	三、四〇〇	三、九〇〇	〇、八〇〇	年八分
長春	二、七〇〇	二、九〇〇	〇、八〇〇	年六分

▲質屋利子 大連其他各地共日本人間には質屋組合組織せられ一定の利率を定めあり支那人間には形式上組合なしと雖、各營業者同盟して其歩調を一にせり。日本人は凡て月利なれども、支那人は多く日歩にして其率も日本人側よりも高價なり、試みに旅順及大連の實例を見るに

		十日未滿	百日未滿	百日以上
旅順	日本人	一割二分	一割	八分
旅順	支那人	一割五分	一割三分	：
大連	日本人	一割六分	八分八	：
大連	支那人	一割九八	一割六三	一割

日淸人を問はず一割以上を超ゆる質屋利子は内地に例を見ざる所にして暴利の嫌なきにあらざるも、蓋し土地の狀况と需要供給の關係とに基くものにして止むを得ざるものなるべし

▲個人貸借利子 個人貸借は未だ盛なるに至らず、但し一般經濟界の程度未だ個人貸借の盛ならしむるに至らざるものなり、今太連に於ける月利を見るに

	百圓未滿	五百圓未滿	五百圓以上
日本人 有抵當	七分六	五分五	五分一
日本人 無抵當	一割	七分五	五分六
支那人 有抵當	五分	四分一	二分八
支那人 無抵當	四分六	三分九	二分九

仁川輸出荷物

△本日當港を出航する君ヶ代丸には雜貨六十噸を積みて鎭南浦に向ふ由△本日鎭南浦より當港に入港すべき成興丸は南浦にて大豆の積込み夥多ある由なれば當港より積載する分は多分雜品三百個位なるべしと△當港より大連及び太沽に向ふべき山東丸は米三千五百叺を大連に又天津行二百叺平野水空瓶七十二萬本を乘載して明日出航する由

統監府辭令

(仁川電話)

任統監府屬(六級)十六日 神内喜三
統監府技師 中桐春太郎
陞叙高等官三等

韓官任免

十六日付を以て左の通り韓官任免を發表されたり

依願免本官 承寧府總管 李載完
同 宮内府侍從官 俞吉濬
同 同 張博
同 同 趙義淵

●一昨日の參内者 昌德宮の參内者は計百三十七人内婦人七十人其重なるものは李總理李宮相李侍從院副卿德壽宮は七十七人内婦人二十六人

●國民農業會社の出資

一進會にてはかねて設立せし國民農業會社の資金として爾來毎月左の如く出資することゝなし尚一進會員にして官吏に任用されたる者は任命の日より出金することに議定したりと

社長 五十圓　會長 十圓
親任官 二十圓　勅任官 五圓
奏任官 二圓　判任官 一圓
會員各々 五十錢

仁川第二小學校

當初仁川觀測所下に新築さるゝ筈なりし仁川第二高等尋常小學校は鐵道管理局所有地と仁川民團所有地との交換交涉纏りたる結果商建設部校舍全部を擧げて之に充つることゝなし近日議案として民會に提出さるゝに至るべし

●護衛警察官下賜金 去十五日太皇昌德宮へ行幸の際嚴妃より之が警衛に從事せし警部及び巡査に對し左の通り御下賜金ありたり
(金十圓)葛城警部、(金五圓)正木秋吉兩巡査、(金十圓)警察官(金廿圓)巡檢七名

日本人斬殺せらる

京城南大門通伊地知松(三五)は多田峯吉なるものと共に韓人二名を率ひ二金採取のため去る十五日京畿道抱川郡地方へ趣きたるに同郡山内方面にて五十の賊に襲はれの地氏は銃創を受け終に斬殺され多田氏のみは辛ふして遁げ歸りたる由

●巡檢慘害さる

去る四日黃海道松禾郡下龍川面信川道路に於て散髪せる男一名殺害せられ居る旨報告に接し海州憲務支部にて取調べたるに同人は松禾分署の巡檢康益祿(廿七)にして海州に引揚げる途中賊のために捕はれ鈍刀にて頭部を斬られ無慘の死を遂げたること判明せる由

●樂友會第三 演奏順序 既記の通本月廿二日、三日、四日、の三日間京城歌舞伎座に於て開催すべき同會音樂會の「プログラム」は左記の通にして入場券は白券一圓、靑券五十錢の二種とし辻屋、日韓書房等にて賣捌く由なり

第一日

第一部

- 日本國歌行進曲 陸軍軍樂隊
- 開會の辭 熊谷賴太郎
- 尺八合奏(六段) 美昇 外三名
- 淨瑠璃(奥州安達ヶ原) 竹本[illegible] 糸 豐澤[illegible]
- 寶生流謠曲獨吟(生田敦盛) 伊藤松月
- ブァイオリン獨奏(歌劇アイルランド) 淺井秋水
- 琴曲(新年の松) 中管[illegible]
- 淨瑠璃(千兩幟) 豐竹光千[illegible]
- 八雲琴合奏(春の調) 加藤淸子 澤田雪子 小田初子 日下部國子
- 筑前琵琶(楠正行) 井上千代子
- 長唄(老松) 陸軍軍樂隊

休憩

第二部

- 舞踏 外國武官 南山狐兒郎　洋裝婦人 吉川靜波　ビール 磐石坊　洋裝少女 喜久川天狗　高襟紳士 開守[illegible]歌　看護婦 玉野秋月　海軍武官 巽弓寒竹　女學生 吉岡茶坊
- 三曲合奏(雪の曲) 三絃 中管道雄　八雲琴 加藤淸子　同 多治比松琴　同 稻本政音　尺八 玉井南軒
- 橘流筑前琵琶(小督局) 松島春風
- オルカン獨唱(聽蟲曲) 竹本彌昇
- 淨瑠璃(近頃河原立引) 豐澤[illegible] 糸 [illegible]玉
- 觀世流仕舞(羽衣) 中川五星
- ブァイオリン獨奏(セダン凱旋軍) 淺井秋水
- 餘興 劍舞、院齊流居合、西洋手品、
- 喜劇(稽業登場人名) 車夫 王井南軒　番頭 西山花葉　うどん屋 吉川靜波　太小僧 吉岡茶坊　あんま 喜美川[illegible]　夜廻 花井[illegible]　曲者 山村天下 小野一競
- 接客斡旋係 會員有志一同

(第三種郵便物認可) 明治四十年十一月十九日 京城新報 (火曜日) 第九號 (三)

一日一筆

▲教師 お臍を前へお尻を後へオ一二と親切に教ふる所謂に氣短かな人にては出來ず
▲借宿 所へビールが好いか實に仕やうか子ーお前
▲官吏 冗員淘汰とは是は驚いたドレ課長の
▲番生 浩然の氣大に不可不養然り而して到底就中頗る況んや足を向くる所是新町 南無阿彌陀佛々々
▲畫伯 一至の筆と揮へば百金立ろに到る感意や知己よりの依頼には一番閉口する
▲社員 ハテ帳尻の穴の始末はと思案中御用の塵席は落花狼籍乾燕仰天した
▲巡査 雨雲を冒して市街を廻る是八圓の給仕
▲給仕 今では大枚十二圓給仕と呼ばれるはハイ々電話口ではオイ小使は俺の下だよと
▲小使 給仕の輩に威張るな時世時節だ國にや土藏が三ツあるぞと是も當にはならず

雜報

熊本貧兒寮員の來韓

熊本市にある貧兒寮は十六年前塘林虎五郎氏が寄邊なき貧兒を收容して現今の貧兒寮を創立したるものにて現今に至る寮主及び寮員の苦心は一方ならざりしが今や其數の爲め教育部、商業部、印刷部等を設け頗る農業部も之れに要する費用は尋常ならず寮舎は朽ちて風雨を漏るに至らんとし豫期の万分の一にも及ばず加ふるに病兒益々増加するに至らんとするに故に同寮員菊地適の兩氏は此等貧兒孤兒の憐むべき状況を在韓同胞に訴へ同情を得ん爲め幻燈及び活動寫眞を携へて一昨日來韓し無限の熱血を灑ぎ入京したり同情ある人々は奮て憐れなる孤兒貧兒に同情せられんことを望むなり(一記者)

健氣なる妻女の慘死

日本婦女の鑑

京仁間北道興郵便取扱所は從來暴徒警戒區域外に置き何等之れに對する備へなかりし處去る十月廿九日突然多數の暴徒來襲し所長市原爲太郎氏は銃を取つて防戰したるも衆寡敵せず遂に斃れたり然るに同人の妻女は夫の奮鬪するを見て女ながら健氣にも二女手菊(三)を小脇に懐込み常に護身の爲め所持せる短刀を揮つて暴徒の群に飛込みたるも女の繊腕何條暴徒に敵し得べき憐れや遂に手菊諸共賊手に罹りて慘死を遂げたり而して長男爲彌(六)は暴徒來襲と聞くより早く常に懇意にせる韓人の家に避難したれば無事なるを得たりと、悲慘の極みならずや依つて管理局に於ては右長男の扶助料に充てんとて目下郵便部内に義捐金を募集中なりと云ふ(仁川電話)

風流なる視察

曾禰副統監は鶴原參與官、宋農相等と共に一昨日水原にある模範農場の視察に行かれたるが之を聞きたる人々は此寒冷の候に流石に韓國の開發に心を注がるゝ殿方とて何れも感心せぬものてそなかりける扨ても其一行には時ならぬ花の香を放ち居りしてそ實に不思議なれど一等室を窃かに覗ひ參らすれば道理てそ曾禰副統監や鶴原參與官や宋農相方のお側には巴城館のお蝶やお愛が侍りて車中の徒然を慰め參らせんさてか喃々と囀り居りしと無心の汽車は此風流なる副統監參與官大臣等の粹様方を載せて無事水原に着し此にて降ろし參らせたる後のことは知るよしもなかりしと

醉漢車夫を刺す

去る十六日午後九時頃旭町一丁目に於て韓人力車夫金應祚(三十三)なる者本邦人に肩先きを刺傷されたる椿事あり當警察署に於て此訴へに依り川野刑事其他巡査直ちに現場に出張し取調べの末加害者後藤砂雄なる者を自宅に於て取押へ目下取調中なり今其原因を聞くに加害者は京城郵便局集配人を勤め居りしものにて加害の前日集配人を辭したるを以て同僚の者等四五名は之が送別の爲め旭町一丁目なる集配人合宿所に酒宴を催し呑めや歌への亂痴喜騒ぎをなし何れも鱈腹飲みたる末はれ定りの如く足も腰も立たざるまでに泥の如く醉ひ潰れ呂律も廻らぬ爲体くに伎も初更となり座も白けんとするにぞ砂雄もいたく同僚の好誼を感謝し千鳥足のヨロヨロと別れを告げ表に出でたるに附近に客待ちせし前記旭町一丁目韓人車夫金應祚の車に乘り自宅に歸らんと同所阿川組下なる報知新聞支局前の石橋まで來りしに砂雄は此處にて車を降り賃錢を拂はんとせしに車夫は僅か二丁足らずの所を不當なる賃錢を請求したるを以て泥醉して喪心したる砂雄は何條堪ふべき忽ち所持のナイフを取出し應祚の肩先にグサと突刺し深さ三寸の重傷を負はしめたり金應祚は之れに驚き直ちに此旨警察署に訴へ出たるにより巡査刑事出張し加害者の取押に從事し被害者は直ちに漢城病院に送り治療を施し目下治療中なり尚ほ一方加害者の砂雄は金を刺傷せしめたるを知るや知らず悠々として其傷を立ち去り自宅にありし所を川野刑事の爲め取押られたる次第なりと

●張紙と道路妨害 京城本町四丁目吳服商岐阜縣平民林茂一郎は開業七週年大賣出の廣告を大和町二丁目實業大阪社京城支店の掲壁に貼付したるを以て料金三十錢▲京城本町四丁目人力車輓子熊本縣平民數本治太郎は街路に車体を横たへ行通の妨害をなしたるにより同二十五錢に處分せられたり

●險呑々々 此頃大和町三丁目附近に於て我步騎兵等銃を携へて雀か何かを頻りに射撃するものありて危險少からざれば近所の子供を持てる親々は萬一に怪我せぬとも限らざればとて心配し子供の外出を止めたるものもありとさりとは險呑至極の話なり

汽車中の所感

一昨日は早朝より日曜一日を仁川に驅廻り海岸より吹き送る鹽風に一入の寒さを覺えて午後六時發の列車に飛び込み車中のストーブに身を寄せてヤット寒さを忘れたるは何よりの馳走なりしが汽車の杻峴を出る頃より火力次第に衰へて富平驛に着する頃はストーブの内は只石炭の灰のみ殘りて又もや寒氣を加へたるに先き頃よりコクリコクリと睡りを催したる乘客二人三人と目を醒してアゝ寒やとストーブに近つき來て失望しアゝまゝよと我慢したるも餘りの寒さに堪へ切れず果ては小刀を取り出して傍にありし薪をけずり燐寸をすりて火をつけるやら又は燐寸箱を投げ込むやら石油をぶつかけるやら六七人の人々が思ひ思ひの働きを試み騒ぎ罵りたるも薪は生木のことゝて何んの條火の燒つくべくもあらず、遂に誰れしも呆れ返りて手を退き寒さを耐えて四五の小驛を急行し列車の永登浦に停車するを待つて驛夫を呼び火を入れさせホット一息つきたるも主力が生木の薪と來ては油をつけたる糸くずの一時は盛に燃へたるばかり鷺梁津の驛に着したる時又もや火は消ねて寒さ一増に酷しく此時は他の列車の乘客も驛夫を促して火を入れさせたるも龍山を過ぐる頃三度び火は消へて一増の寒さを感じ南大門を下車する時口々に驛員の不信切を罵る聲チラチラ耳に響けり追々に酷烈の寒天に向ふ今日此頃若しや長距里の旅行に這んなる目に逢はされた日にはれ話しになつたものでなし(狼狽生)

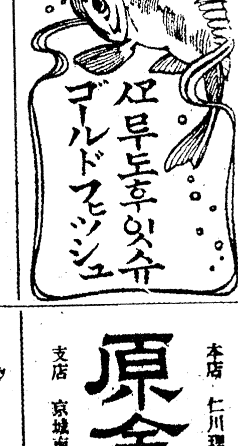
●月下の呪咀 新町遊廓の裏手なる松林の方に當り何やら女の聲にて祈る樣な聲の聞ゆること度々ありしも同町の人々は場柄とて何所樓かの娼妓が稻荷樣にでも何か心願の筋あり祈りするものならんさりとは殊勝な心掛けかなどて左まで氣にも留めざりしが此頃草木も眠むると云ふ所謂丑滿時或る人がフト眼を覺したるに枕に通ふ冷たき風に夜の寂寞を破りて聞ゆるは物いと淒き女の聲ハテ何事ならんと耳を欹てれば其聲は正しく呪咀の聲らしく今時節昔語に聞く丑の時詣りとか云ふものか場所が場所だけ斯る呪咀をなすものなしとも限らず如何なる呪咀か一つ見屆け呉れんと物好きにもソツと室を抜け出れば二十五日の片割れ月は大空に懸り四邊は靜まりて各樓の痴話口説の聲も聞へず萬物皆な死せるが如きも淒き呪咀の聲は遙かに松林を渡りて響き恨むが如く怒るが如く泣くが如きに聞きなされ總身殆んど粟立ちて怖しきこと限りなかりしも五尺の男子何事かあるべきと自ら心を勵まし聲する方を便りに窺ひ寄れば昔語りの丑の時詣りとか云ふ鬼女の扮装にはあらでも婀々したる或る娼妓にてぞありける兼て二世までもと堅く契りし男が井門とかに増す花出來門口を踏み切ながらも足を向けざるを恨み斯くは呪咀居るものなりと分りしとは左もあるべきことなりと見た人の話を倣て件の如し

●板挾のドタ福 ソレつらつら惟みるに女は遲かれ早かれ一生に一度は亭主を持たねばならぬもの綴くりするは不緣の本普は急げと其獅子の如き鼻を蠢ごめかし皿の如きドングリ眼をキョロつかせながらアレか是れかと飯をも喰はずに探ね見たれど骨籤道樂のものならサテ措き滿足なものゝ間違つても手を出すものもなきより大に落胆がつかりし鏡に向つて獨り言チ、れ母さんは根めしやれ父つさん情けなや斯うして見たところでは十人並以上の顔を持ちながら世にも殿御の無きものぞ皆んなこれも父つさんやれ母さんの察しの惡い所からイツソの事所變れば品變るとの譬へ朝鮮でも飛んで行かんものをと其圓滿とやらに發達したる大きな尻に帆を掛けて當地に渡り來り普通の家にては男を見る事の少なくソレには風呂屋に奉公すれば裸の男を見らるゝとの考から南大門外のある風呂屋にと其名もれかめと變名して下女奉公に捲み込みしが今度は眞劍勝負の場所と每夜每夜板臺の上に大きな尻を据へチンのやうな顔をして男の裸に知らねども其の妙な眼付きてはまるで仁輪加のおかめのやうソレデも御本人は大事な場合もこゝ必死となつて探索せしもドウモ氣に入つた人もなく己むなくお尻の熱醒ましにヤツパリ之も狸のやうな男を見出せしとか先は右迄あらあら可しくとの投書が…

紅筆日誌

見返り柳

△十五日(晴天) 身にあまる深き思ひの切なさと、馴れぬ勤めの疲れより昨夜は姐さんに是非にと縋つて一夜丈休みしも、女波男波の胸の中、寄せては返す磯の邊の、乾く隙なき嘆きの涙、ツと泣き明かして一睡だもせざりしかば、身体は恰かも綿のやう今日も又一日丈休まんものをと思ひして、イいつもの意地惡るき姐さんのことゆゑ、ツカナ許しは呉れまじきと、斯うは思ひながらも身体には替へられねば、心を定めて姐さんの部屋に行き、しとやかに其よしを語りしに、案の通り妙な目つきにて妾を見遣りながら「お前さんの身体でお前さんが休むのに別に不思議はないぢやないか親方おやなし知りませんよ」との、つれなき挨拶に、妾は手持無沙汰に下俯き居りしに、ダシヌケに一人の朋輩衆の「八重垣さん檢査に行かうぢやありませんか」との言葉にソウソウ今日はいつもの檢査日にてありけるかと、ハット氣が付きイソイソと妾が部屋にともぜり着物脱ぎ替へ髪撫きつけ、其朋輩衆と連れ立ちて家を出でしにき、妾が此の廓に身を沈めしより檢査を爲せしはまだ三たび、未通氣のシミジミと、うら恥かしくも淺間しくも思ひしかど、勤めする身の是非もなく、顏は紅葉の色添へながら、われから勵ます心意地、マヅは事なく過ごしにき、此日妾の朋輩にて三人程恙ありて入院せしものありしが、妾はむしろ此の入院せし朋輩を心より羨ましく思ひにき、もとより恙ある身のいまはしくは思はざるにはあらねども、たとひ一時たりともあの氣立がとみし姐さんの傍を離るゝその心、のんびりとして寧ろ此の森閑とした病院の一部屋にて思ふまゝに泣き嘆きたらんには何分が心の闇の晴れやらんにはと、ゆくりなくも病める朋輩衆の今際の身を羨むわが心根とを思へば僞はしくも又淺間しき限りにこぞ、折柄迎ひに來りし仲ざんと家に歸り風呂に入りて暁の化粧を爲し、身を剌む相圖の柏子木の音と共に店に坐はりぬ、今日は秋の日の空も補けく晴れ渡りて尚々十五日のことにしもあれば素見の客多く、廓内も何となく賑はしくもありき、妾は此職より三枚目にて(姐さんといふが此職妾は妹花魁なり)一と際客に眼が着き易く、素見の客の格子先に集ひて、アゝのコウのと口善惡なき事を言はるゝには、まことうら巻かしく平常俯き勝ちなるより、いつも姐さんより嗜まれにき、夜も更け亘りて後の柱時計はピンピンと十一時を打つと思ふ間もなく、躁てより足繁く通ひ來る統監府のあるれ客來りけるより、脱ぎ替へ座敷に侍べりしに、酒が言はする僻言かソレとも外に譯ありての事かは知らねども、今宵に限りて怨みつらみの數々を並べ立つるにぞ、妾はハタト胸に思ひ浮びしふしのなきにしもあらねど、何に氣なくあしらひ、機嫌取りて臥所にと寢ねしめにき、さは云へ其れ客といふは妾がつねづねより身震ひする程の厭な客、屏風に畫きし双蝶の、誰れかは番ひ離れじと、言ふも一夜の情にこそ。





銀行一般業務精々御便利に取扱申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓
京城南大門通(電話四二〇)
株式會社 十八銀行 京城支店
本店 長崎市築町
支店 出張所 京城、仁川、釜山、群山、木浦、元山、龍山
韓國 馬山、群山、元山
日本 大阪、佐世保、五島、熊本、嚴原、壹岐
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候(利息日歩壹錢四厘)
長崎貯蓄銀行代理店(十八銀行京城支店)

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所 大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、仁川、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町、下關、釜山、元山、鎮南浦、木浦、群山、馬山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、義城
韓國支店及出張所
清國出張所 安東縣
株式會社 第一銀行京城支店
電話番號 營業部 一一番 同 一二番 當用 三一二番 國庫部 六一一番 用度係 六二二番 分拆所 六一二番
總支配人 市原盛宏
副支配人 三島太郎
國庫部長 竹山純平
副支配人
調查部長
副支配人
營業部長 木村雄次

私立京城漢城病院藥劑主任を辭し左記に開業候間一層之御愛顧願上候
龍山櫻町
正八位勳六等 藥劑師 川瀨一五郎
商號 開壽堂藥房
營業科目 處方調劑 藥品 賣藥 衛生材料品其他種々

廣告
往診 午前
宅診 午後
但し急患者は隨時往診
京城貞洞大漢門前
入院隨意
蘇生病院

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎮南浦 安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店(電話五八番)

爲替取組先
東京 二十七ケ所
山陽 十三ケ所
南海 二十五ケ所
北陸 七十三ケ所
臺灣 二十三ケ所
東海 二十八ケ所
北海道 十ケ所
山陰道 十三ケ所
西國 十三ケ所
韓國 三十ケ所
清國 一九ケ所

一石 炭
一セメント
一パインアップル
三井物產合名會社
京城出張所(電話二十六番)
仁川出張所(電話六十三番)
右新荷着仕候間多少に不拘御用命願上候

熊平製造金庫
東京 竹內製金庫
大阪二重扉並ニ回轉式 消火器
一手販賣
韓國販賣部 京城本町一丁目
熊平商店
電話六二四番

統監府
各官衙御用
荷物荷造及運搬
本店 營業部
伊藤組
本町三丁目 陽町
伊藤友松
(電話七百三十二番)(電話四十番)

廣告
齒科全般ノ治術
米國最新式義齒
診療時間 自午前八時至午後九時 齒痛患者ハ何時ニテモ來院シ難キ御方ハ往診ニ應ス
京城本町六丁目(壽蕎麥橫丁)
米國齒科醫學博士 女醫 中村安子

電話貳貳八番
開通
一陸送運搬請負
今般電話開通致候に就ては親切叮嚀を旨として御便宜を計り精々勉强仕候間御用命の程伏て願上候
京城南大門外一丁目
姬野荷馬車部

廣告
牛肉 かしわ すき燒
永樂町二丁目赤門橫手
福壽
初玉事 福田千雄

賣約品受取者は本會より曾て差上置候受領證に殘金を添ひ本月十六日より末日までに受取方申出でらるべし但し來る十七日は休業致候
京城博覽會

南山町一丁目(植村病院前)
貸席 待合
まつ乃花
客室は淸潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

和洋 金物 金物部
金 釘 洋 鐵 鋼
土 工 用 器 具 類
洋 物 類
諸 種 油 一 式 類
京城本町五丁目
藤釘本藤次郎本店
電話長四五番
御部
精糖 トタン平浪板廿六番廿八番卅番 各種
和洋 メリケン粉
金庫 及度量衡 紙類

京城博覽會
牛乳 一等金牌受領
京城龍山通一丁目(南大門外孝誠殿)
韓國畜產株式會社
(電話九二八番)

御披露
御手輕 御料理
新築中の處今般落成仕り本日より開業仕候間續々御來車被下度候
十一月三日 京城本町八丁目北へ入
元祿亭

各煉瓦工場及精米所其他諸工場
ストーブ及風呂場並ニ調理用炭
筑豐 唐津 石炭販賣
日本產 無煙炭 近日中入荷
淺野セメント卸小賣
支那人製及韓國製 日本型 煉瓦大販賣
京城長谷川町(小公洞)
石炭商 岡田商店
店主 岡田伊太郞
販賣所 龍山埠頭 岡田貯炭部

京城博覽會
名譽賞金牌受領
織物各種
韓國京城本町四丁目
君ケ代足袋
發賣元 山口吳服店
電話九番
尙は各位の御厚志に酬ひん爲め今後益々品質を精撰し一層勉强仕候間不相變御引立の程奉懇願候

直輸入荷着
セメント特約販賣
新荷着
浪板
建築及土工用具並小金物類一式取揃申候間御用命被仰付度候
廉價大販賣
仁川港本町通り
秋田商會鐵物部
電話一一六番

宿泊 宴會 玉突
日本人俱樂部
京城南山町三丁目(電話一二三番)

謹啓時下秋冷之砌益々御清穆奉賀候陳者弊組儀四方御客樣の御引立を蒙り以御蔭日に隆盛の域に達し候段厚く御禮申上候就ては今回東京より体裁優美にして且つ堅牢なる車輛數臺を取寄せ且子も正直にして勇健なる者を撰抜員致し將來倍々勉强可仕候間何卒倍舊御愛顧御用仰付けられ度御禮旁々伏て奉懇願候
明治四十年十一月
京城本町一丁目
別府組
(電話七五…)

空前絕後 旅順口大連灣
一、大パノラマ開館
一、本館ハ京城大漢門側ニ建設シ十一月二日ヨリ晝夜開館
觀覽料
○貳拾五錢
○貳十錢(軍人及學生は半額)(五十人以上ノ團體)

大阪商船株式會社
仁川 瀛船出帆廣告
切符發賣所
仁川支店 電話…
仁川稅關波止場出張所 電話…
京城本町通リ角發賣所 電話…
荷客扱店 慶田組 電話四…
●馬關、神戶、大阪行 安平丸 十一月廿日前十時出
●大連、門司、橫濱行 勝山丸 十一月廿五日
●馬關、宇品、神戶、大阪行 咸興丸 十一月十八日前十時…
●群山、木浦、馬山、釜山、馬關、神戶、大阪行 群山丸 十一月廿二日後五時…
本浦丸 十一月 日後五時…
●群山、木浦、馬山、釜山、馬關、神戶、大阪行 千賀丸 十一月十九日後五時出
筑後川丸 十一月廿六日後五時出
●木浦、釜山、嚴原、鄉之浦、長崎行 木曾川丸 十一月十七日後二時出
●長崎行 信濃川丸 十一月廿五日後一時出
●鎮南浦、大連行 木曾川丸 十一月廿日前十時出
●鎮南浦行 勝山丸 十一月 日後五時出

日本郵船株式會社
仁川 瀛船出帆廣告
仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番
京城南大門通 巴商會 電話三〇六番
貨物及船客取扱店 電話十番
●釜山長崎門司神戶行 山東丸 十一月二十八日後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 浦汐丸 十一月廿七日後三時出
第一オハヨ號 十二月四日後三時出
大連、大沽行 酒田丸 十一月廿四日後一時出
山東丸 十一月十九日未明出
高砂丸 十一月二十八日後一時出
●鎮南浦行 第一オハヨ號 …
浦汐丸 十一月廿九日後三時出
●釜山、元山、城津、浦鹽行 弘前丸 十一月廿日
御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄ハ送迎船ヲ御雇ヒ可申候尤モ送迎船ハ一本船出帆ノ約五十分前ニ船舶ノ事